

(1) 令和2年度 学校経営方針

学校教育目標	「共に高め合い、生きる喜びを拓いていく子を育てます」				
	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学び自ら考える子を育てます。(知) ○礼儀や規律を重んじ、他人を思いやる子を育てます。(徳) ○豊かな心と丈夫な体をもつ子を育てます。(体) ○地域や人やものを大切に、ともに生きる子を育てます。(公) ○いろいろな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開) 				
学校概要	創立 42 周年	学校長 大塩 啓介	副校長 斎藤 忠雄	2 学期制	一般学級: 22 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 746 人	主な関係校: 上の宮中学校・寺尾中学校・馬場小学校・菊名小学校・旭小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上の宮中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<ul style="list-style-type: none"> ・自己有用感 ・主体性 ・コミュニケーション力 	上の宮中学校 馬場小学校 獅子ヶ谷小学校 菊名小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の可能性を信じ、何事にも全力で取り組む子ども ・自分の夢を情熱をもって語る子ども ・人とのかかわりを大切に、他を思いやる気持ちのある子ども <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> 【8月】小中ブロック合同研修会 【9月】授業研究会・課題研究会 【1月】小中交流会(学校説明/部活動紹介) 【3月】情報交換会・課題研究会

中期取組目標	○全教職員が学校経営に主体的に参加し、子ども一人ひとりが安心して豊かに学び育つ学校にします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的な態度を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、「全員を仲間と認め、仲間を大切に、仲間と協力する」集団を作ります。 ・地域の豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努め、体験活動を通して、地域の「人」とのつながりを意識し、地域を愛する心を育てます。 ・家庭、地域、関係機関との連携を図り、社会に開かれた学校づくり・安全安心の学校づくりを進めます。

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①低学年、中学年、高学年、そして中学校へのつながりを意識した学習指導を行う。 ②本校の特色を生かした授業づくりを行い、児童が主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育む。 ③児童が様々な情報や知識を相互に関連付け、物事を深く考える力が身につくような授業を行う。
担当 学習指導部	
豊かな心	①挨拶の良さを実感できる取り組みを実践し、温かい雰囲気づくりをする。また、進んで挨拶する児童を積極的に評価し、自己肯定感を高める。②様々な授業で多様な価値観を認め合うことを大切に教育活動を継続的にを行い、子どもたちが多様性を認め合える素地を培う。③地域の方々とのふれあい、地域の方の温かさや優しさにつれ、地域愛を育てる学習を展開する。④年間計画に沿って道徳の授業を行い、道徳的価値を把握して実践しようとする児童の意識を高める。また、職員研修を効果的にを行い、職員の人権感覚を維持する。
担当 道徳教育推進	
健やかな体	①各学年、単元の系統性を大切に、運動をする楽しさを味わえる学習を展開する。 ②子どもたちが自分自身の体調に気を配り適度に体を動かせるように、環境や場を整える。 ③給食委員会が、日々の献立やその日の給食に関わる情報を各クラスに発信する。
担当 体育部	
児童指導・特別支援教育	①配慮を要する児童の具体的な支援について、年間3回と、大きな行事の前に全職員で共有する機会を設け、指導に生かすとともに、どの職員も同じ対応ができるようにする。 ②通級指導教室、特別支援教室で指導を受けている児童の個別の教育支援計画と個別の指導計画を保護者と話し合いながら作成していく。
担当 人権・児童指導・特別支援	
望ましい集団活動	①養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、学校図書館司書なども、学級担任とともに児童の指導にあたる。 ②委員会の組織を毎年見直し、子どもたちの活動が主体的になるように支援する。 ③子どもの自主性を重んじ、児童自身が集団活動を意識して生活していくようにする。
担当 特活指導部	
自分づくり教育 キャリア教育	①地域の豊かな自然教育を生かした教育活動の充実に努め、体験学習を通して、地域の「人」とのつながりを深め、地域のよさを実感できるようにする。②「横浜の時間」や生活科を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。③学年に応じて、地域住民や企業がかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考え、働いている方の思いや願いを知ることができるようにする。
担当 生活・総合部	
環境教育	①体験学習や地域の「人」とのつながりを通して、豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努める。 ②安全訓練の中に外部の方からの指導講評や体験を取り入れる。 ③毎月の安全点検で児童が安全な環境で学習活動に取り組むことができるようにする。 ④全校児童に環境保全の意識を定着できるよう、啓発ポスターやビデオ放送などに取り組む。
担当 保健・安全・環境	
地域連携・学校運営協議会	①家庭、地域、関係機関との連携を図り、地域の教育力を効果的・効率的に活用し、より豊かな教育活動へとつなげる。(授業サポート、見守り隊、情報教育) ②「学校だより」のほか、「学校HP」の内容を充実させ、学校の情報発信に努める。 ③教育懇話会で各地域の代表者の方々や学校運営協議会の意義と役割について共有し、2022年度の協議会設置に向けた準備を行う。
担当 副校長	
いじめへの対応	①学年研で、積極的に専任を交えていじめ防止に向けての情報共有を行う。その情報を児童指導部で共有し、専任が取りまとめ、対応にあたる。②毎月行われる「いじめ防止対策委員会」において、各学年の情報を、学年、学校全体で共有し、対応にあたる。③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を、専任が中心となり、学年や学級で積極的に活用できるようアドバイスする。④いじめ防止アンケートを年2回行い、いじめの未然防止及び、早期発見、解決に役立てる。
担当 人権・児童指導・特別支援	
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①メンターチームを中心に若手教職員の育成を図るとともに、ミドルリーダーや学校運営の中心となる職員を育成する。職員の個性を活かしつつ、学校や児童の実状を把握し、特色を生かした組織作りに努める。 ②「チーム獅子ヶ谷」という意識を高め、情報の共有化を図り、常に「報告・連絡・相談」を行うようにする。また、月1回の教務会・職員会議、週1回の学年研を開催し、学校運営を組織的に行う。 ③組織改編や会議の精選、事務作業の軽減等、業務の効率化を図り、働き方改革を促進する。
担当 副校長・教務	